

二〇一六年九月一六日

合唱す念仏寺のつくつくし
風が葉を持ちあげしとき葛の花
鏡池影を散らして群とんぼ
旅ごころ独りつのらす夜長かな
幾たびも外に出でみる無月かな
特等席猫と相席して端居
新涼や翼下に富士のくつきりと
カーテンを開けてあけてと秋の風

二〇一六年九月一五日

村豊むと見たり稲穂の黄金波
秋祭り本番近し遠太鼓

二〇一六年九月一四日

神苑の鹿の目濡れて遠まなこ
秋蝶の群れて河原の昏れなんと
秋茄子を拭きて並べり朝市女
寝ねがての枕に激し虫時雨

二〇一六年九月一三日

父の忌に訪ふ畦道の曼珠沙華
神宮の森賑ははせ小鳥来る
出揃ひし双葉に畝の風さやか
全開す牛舎を抜けて鬼やんま
運動会なかなか起きぬ大達磨

なつき

泰山

やよい

菜々

よし女

克子

やよい

三刀

菜々

たか子

たか子

豆狸

なつき

よう子

まゆ

菜々

よし女

さつき

治男

二〇一六年九月一二日

起しやる庭の草々野分あと
身に入むや南無と書かれし木の化石
野面積み目地といふ目地草の花
お守りの赤唐辛子吊るす軒
供花のごと陸墓のほとり百日草
泉湧く水陽炎の揺れやまず

二〇一六年九月二日

栗の毬堆く積む里の道
つば広を目深にかぶる案山子かな
石投げの三段跳びや秋の川
秋天へ直立したる飛行雲
黄昏て銀の波打つ芒原

二〇一六年九月一〇日

山襖くつきり見せて月今宵
色変へぬ松要とす大手門
長堤のつづくかぎりの虫の声
敬老会みな大笑ひ腹話術
園児らはお昼寝タイム小鳥くる
旅涼し指呼の車窓に富士の山

まゆ

なつき

たか子

なおこ

ぼんこ

なおこ

さつき

うつぎ

こすもす

たか子

宏虎

宏虎

ぼんこ

さつき

満天

たか子

明日香

毎日句会みのる選・二〇一六年九月一九日